

2012 年度夏学期 総合科目一般 (D. 人間環境一般)

世界の **水** 安全保障と

日本の科学技術

— 「水の知」の貢献 —

21 世紀は人口増加、経済規模の急拡大と気候変動に伴い、世界で水をめぐる紛争が起こるとさえ言われています。水と衛生分野への日本の ODA 実施額は世界最大であり、最近では政府の支援のもとで日本企業も海外に向けた水ビジネス展開を目指しています。また、日本の水処理技術は世界最高レベルといわれ、気候変動に関する政府間パネル (IPCC) 報告書では、水循環や水資源の分野をはじめとして日本から多くの科学者が貢献しています。一方で、2011 年には、東日本大震災による上下水道などのインフラ被害や放射性物質による環境影響、タイの洪水被害など、水に関する安全性と管理体制が問われました。

水をめぐって、日本と世界の関係がより密接で複雑になる中で、日本の政府・企業・個人が世界の水の安全保障に貢献するためには、より積極的に戦略的な思考が必要です。しかし、世界の様々な地域で水に関する利害は錯綜し、水を管理する実務が多岐にわたっている中で、水に関する「知」は様々な分野に分散しています。そこで、分野・組織横断的な知識体系を統合的に学ぶため、世界の水問題とその解決へ向けた技術と制度を概観するとともに、水に関連する各分野の第一線の研究者・実務者たちに話題提供をいただきながら講義を行います。本講義に参加する学生の文理、学年を問いません。あらゆる分野を志す学生の参加を歓迎します。

講義概要

講義名称：世界の水安全保障と日本の科学技術～「水の知」の貢献～
(総合科目一般 D. 人間環境一般)

対象：学部 1、2 年生

担当教員：滝沢 智 (工学部 都市工学科、「水の知」(サントリー) 総括寄付講座 兼任)

お問い合わせ：村上 道夫 (総括プロジェクト機構「水の知」(サントリー) 総括寄付講座)
michio@env.t.u-tokyo.ac.jp

2012 年度 夏学期 (4 月 9 日開講)

月曜 2 限 (10:40 ~ 12:10)

13 号館 1312 教室

講義スケジュール

第 1 部：世界の水安全保障

- 第 1 回 (4 月 9 日) 「世界の水安全保障と日本の科学技術～「水の知」の貢献～」
滝沢 智 (工学系研究科)
- 第 2 回 (4 月 16 日) 「なぜ、日本人は水で世界貢献できるのか? -日本の水世界戦略-」
竹村 公太郎 (日本水フォーラム代表理事兼事務局長)
- 第 3 回 (4 月 23 日) 「水を巡る国家間の確執と協調」
中山 幹康 (新領域創成科学研究科)
- 第 4 回 (5 月 7 日) 「途上国における地下水問題とその解決に向けて」
徳永 朋祥 (新領域創成科学研究科)

第 2 部：都市水システム

- 第 5 回 (5 月 14 日) 「水利用のデザインとマネジメント」
窪田 亜矢 (工学系研究科)
- 第 6 回 (5 月 21 日) 「水システムの健全性 -都市水循環系の問題点とその解決-」
村上 道夫 (「水の知」(サントリー) 総括寄付講座)

- 第 7 回 (5 月 28 日) 「エンジニアリング企業による海外水事業展開」
大熊 那夫紀 ((株) 日立プラントテクノロジー)
- 第 8 回 (6 月 4 日) 「横浜市水道局の国際協力活動」平久 (横浜市水道局)

第 3 部：水資源管理

- 第 9 回 (6 月 11 日) 「水のサステナビリティを目指して -水と生きる企業の水源林保全活動-」
芦刈 俊彦 (サントリービジネスエキスパート株式会社水科学研究所 所長)
- 第 10 回 (6 月 18 日) 「社会の変化と水害の変容」
中村 晋一郎 (「水の知」(サントリー) 総括寄付講座)
- 第 11 回 (6 月 25 日) 「人工林の管理と水資源」
恩田 裕一 (筑波大学生命環境化学研究科)
- 第 12 回 (7 月 2 日) 「日本の川文化と今後の治水のあり方」
大熊 孝 (NPO 法人新潟水辺の会代表、新潟大学名誉教授)
- 第 13 回 (7 月 9 日) 「総括：世界の水問題解決へ向けた水の知」
沖 大幹 (生産技術研究所)